

## 総 説 離島振興の基本的考え方

### 1 伊豆諸島の役割

伊豆諸島の存在により確保されている海域は約 2 万 km<sup>2</sup>、わが国の領海の約 6.5%、排他的経済水域は約 51.9 万 km<sup>2</sup>、全体の約 13.5%を占めている。さらに、小笠原諸島の海域も含めると、実に領海の約 11.6%、排他的経済水域の約 45.0%という広大な海域が東京都の島しょにより確保されている。首都東京に接しているこの海域は、東京湾から小笠原諸島まで南北 1,000 km以上にも及んでおり、そこにはわが国屈指の好漁場が形成され、地元漁船だけではなく全国の多くの漁船が操業している。さらに、水産資源はもとより大陸棚諸資源及び各種エネルギーの開発・利用など、多くの可能性を有している。平成 8 年の国連海洋法条約の批准によって、国際的な 200 海里時代に突入した現在、伊豆諸島は、広大な排他的経済水域の確保や国際的権利の確保において、極めて重要な国家的役割を果たしている。同時に、外国と直に接するこれらの島々は、そこに人が居住することにより、密航・密輸等犯罪の防止機能をも担っている。

伊豆諸島は、首都圏に近接しながら都市活動のけん騒とは一線を画し、清浄な空気と緑豊かな環境のなかで素朴な生活が営まれている地域である。そこでは、時がゆったりと流れ、島ごとに姿を変化させる景観が広大な自然と悠久の歴史を実感させてくれる。

近年、都民をはじめ多くの人々において、海洋や自然とのふれあいの志向が高まりつつある。多様で優れた自然と個性豊かな歴史文化を有する伊豆諸島は、その独自の地域特性から、訪れる人々にとって価値ある「癒し」の空間として、ますます貴重、かつ、その果たすべき役割は重要なものとなってきている。

都心地域と交通手段が直に結ばれ、短時間で訪れることができる本地域の存在は、単なる貴重な観光資源というだけでなく、都民はもとより広く国民共通のかけがえのない財産である。

### 2 振興の基本理念～価値ある地域差の発揮に向けて～

離島振興の目的は、従来、本土より隔絶せる特殊事情よりくる後進性を除去するための対策の樹立及び事業の実施により国土の均衡ある発展を目指すものとされていた。これに対し今回改正された離島振興法（平成 14 年 7 月改正）においては、他の地域に比較して低位にある状況を改善するとともに地理的・自然的特性を生かした振興を図るため、地域の創意工夫を生かし自立的発展を促進するものとされた。つまり、離島振興の目的は、国土の均衡ある発展から、島の個性に着目した振興、すなわち価値ある地域差の発揮による発展へと大き

くシフトした。

これを踏まえ、本計画においては、この価値ある地域差の発揮を「潜在的な地域資源のポテンシャルを最大限に生かした非日常的癒し空間の創出」ととらえ、今後10年間にわたり本地域に活力をもたらし各島が自立的発展を遂げていくための広域的な振興の基本理念とする。

社会経済情勢の先行きがますます厳しくなる時代にあって、小規模な自治体である島が生き抜いていくためには、地域に顕在する優位性のみならず、潜在するあらゆる可能性を掘り起こし、総力を挙げてこれを地域の活力につなげていく必要がある。そのためには、有意な存在はすべて地域資源であるという観点に立脚し、英知を結集して地域のポテンシャルを引き出し、これを資源化していくことが次の時代の地域戦略となる。とりわけ、従来、省みられることのなかったアイデアや活動に対し、全く異なる視点から光を当て、振興施策として再構築するなど既成概念にとらわれない創意あふれる取組が求められている。また、地域資源とのかかわり方も問われている。すなわち、地域資源は、これを守り育てていかなければ、いずれは枯渇し、あるいは、衰退していく。地域資源は、引き出し活用するだけでなく持続的に発展させていかなければならない。

伊豆諸島は、豊かな海洋資源、変化に富んだ自然景観、時がゆったり流れる素朴な生活、固有の歴史・文化、伊豆諸島ブランドといわれる独自の特産品など、魅力あふれる地域資源に恵まれている。さらに、一つひとつの島が、それぞれまったく異なった顔を持ち、訪れる人の好みに応じた多様な選択肢を提供することができる個性に満ちた地域である。しかも、これらの島の交通手段は直に東京の都心地域と結ばれている。言い換えれば、伊豆諸島は、首都圏において都市活動のけん騒とともに暮らす三千三百万の人々にとって、短時間で訪れ、日常生活と異なる別世界を体験できる広大なテーマパークともいべき存在なのである。

これらのことから、本計画においては、伊豆諸島全体を「非日常的癒し空間」と位置づけ、そこに存在する地域資源のポテンシャルを引き出し活用するとともにこれを持続的に発展させていくことにより、本地域の自立を実現していくものとする。